

主題	希望する生活の実現「一泊旅行」
副題	～あなたの笑顔が見たいから～
外出支援	

研究期間	24ヶ月	事業所	特別養護老人ホームゆたか苑
発表者：今林 幸枝（いまばやし ゆきえ）		アドバイザー：	
共同研究者：高橋 法子（たかはし のりこ） 山口 絵理（やまぐち えり）			

電話	03-3959-2129	メール	yutaka-sc@douen.jp
FAX	03-3959-2149	URL	http://blog.yutakaen.net/

今回発表の事業所やサービスの紹介	ゆたか苑は平成8年4月、豊島区長崎の閑静な住宅街に区立長崎公園と時期を同じくして地域福祉の発展を目指し開設しました。50床の特別養護老人ホームでは、4床のショートステイ、及び指定居宅介護支援事業所を運営しております。私たちの願いは、ご利用者の皆様が、思い出深い地元で「いつまでも自分らしく生活していきたい」そんな当たり前の思いを笑顔で感じて頂くことです。
------------------	---

《1. 研究前の状況と課題》

年間行事として初詣やお花見、季節ごとのドライブなど近隣への外出支援は行っていたが、利用者懇談会で「海が見たい」「温泉に行きたい」と遠出の要望が度々あった。又、お食事以外は居室で過ごされるご利用者が「昔は旅行が好きで色々な所に行ったのよ」と懐かしそうに話されていた。年齢を重ね、足、腰が弱くなるにつれ、家族に負担をかけてしまうから「どこか連れて行って」とは言えなくなる。まして施設に入所されたら、旅行（外泊）なんて最初から諦めてしまっている。

「旅行に行きたい！」そんな思いを抱えたご利用者は沢山いるはず。その願いに何とか応えたい。一人ひとりの思いに寄り添ってこそその「寄り添う介護」ではないか。

「一泊旅行をやってみよう」と職員の声が上がリ、全職員の協力を受け、21年度から一泊旅行が開始された。

《2. 研究の目標と期待する成果・目的》

目標

個別ニーズのひとつとして、安心・安全で楽しい「一泊旅行」の実施による利用者満足度の実現

成果、目的

〈ご利用者〉

- ・心身ともにリフレッシュしていただく
- ・施設での生活に楽しみ・生きがいを持って過ごしていただく
- ・職員との信頼関係が深まる

〈職員〉

- ・計画を立案、施設全体への周知、実施することで、資質の向上や仕事に対するモチベーションアップにつながる
- ・施設とは違う環境であっても柔軟に対応できるスキルの習得や向上は「観察力」「判断力」「応用力」を養い自信につながる

《3. 具体的な取り組みの内容》

第一回目の一泊旅行は平成21年5月に実施した翌年からは春と秋の2回とし、平成25年5月までに8回実施した。実施状況及び参加人数は以下の通りである。

- 21.5 木更津（千葉県） 3名
 - 22.5 河口湖（山梨県） 3名
 - 22.9 越後湯沢（新潟県） 3名 ご家族1名
 - 23.5 河口湖（山梨県） 3名
 - 23.9 水上（群馬県） 3名
 - 24.5 秩父（埼玉県） 3名
 - 24.9 河口湖（山梨県） 3名
 - 25.5 秩父（埼玉県） 2名 他施設2名
- 事業計画にて毎回3名の担当職員を決定している

PDCAの活用

Plan（計画）

「安全」「安心」への配慮、職員が自信を持って同行できるように

- ・ ご利用者に希望を聞く
- ・ 宿泊先の検討、選定、打ち合わせ
- ・ 下見実施（交通のルート、宿泊先及び観光先のバリアフリー状況確認）
- ・ スケジュール検討（晴天時、雨天時）
- ・ ご家族へ説明、承諾を得る
- ・ 施設全体へ日程、内容を報告（企画書）
- ・ 同行職員による打ち合わせ、係り分担

Do（実行）

- ・ ご利用者が安全に旅行に行けるように、不安を感じる事がないよう気配りをする。
- ・ 旅先の景色を観て心の中の原風景を思い起こす事ができる
- ・ 旅行へ行った事を忘れてしまっても記録として残るようにたくさんの写真を撮る
- ・ 家族水入らずの時間を大切にできる

Check（検証）

- ・ ご利用者の様子、反応、感想
- ・ ご家族の感想
- ・ 職員の動き

Action（改善）

次回、より良い旅行に向けて

《4. 取り組みの成果と考察》

- ・ 毎回、ご利用者から感謝の言葉を頂き、ご家族からも「ここに入所しなかったら旅行なんて行けなかったもの」との言葉を頂くことができ、ご利用者だけではなくご家族の思いに少しでも寄り添うことができた。
- ・ 旅行が恒例行事となった今「又、連れて行ってね」と笑顔で話されるご利用者に「今度はどこに行けるのか」と期待を持って生活していただいている。
- ・ 認知症のご利用者が同行した職員を見かけると「楽しかったよ、ありがとう」としばらく声をかける様子から、お世辞ではなく本当に楽しい時間を過ごして頂けたと感じた。
- ・ 宿泊先のデータが増えることで、計画がスムーズに行えるようになった。（宿泊先のリピート）
- ・ 旅行から帰られて安堵された表情をみた時、ここがご利用者にとっての我が家。安心して暮らせる場所。ご利用者に「旅行は楽しいけれど、帰ってくるとホッとするね」と言って頂けるように、その我が家での生活を守らなければいけないと振り返る事ができた。

《5. まとめ、結論》

- ・ 施設に入所され、あれは出来る、これは出来ないではなく、少しでも可能性があれば実現できることを学ぶことができた。
- ・ ご利用者、ご家族の思いに寄り添って、より多くの笑顔が見られるように、これからも安心して楽しめる一泊旅行を継続して行く。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

本研究発表を行うにあたり、ご本人（ご家族）に口頭で確認し、本研究発表以外で使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

《7. 提案と発信》

今年度、賛同を頂いた近隣施設と合同での一泊旅行をおこなった。ご利用者の希望する生活の実現に向けて、ご利用者と寄り添い「いつまでも自分らしい生活を送り続ける」当たり前の思いを笑顔で感じて頂けるケアを続けていきたい。

【メモ欄】